

第1学年 国語科 学習構想案

日時 令和7年11月26日 (水)

場所 1年2組教室

指導者 教諭 ○○ ○○

1 単元構想

単元名	せつめいする 文しょうを よもう／せつめいする 文しょうを かこう 「じどう車くらべ／じどう車ずかんを つくろう」 (光村図書「国語 一年下 ともだち」P 30～37)		
単元の目標	(1) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 (2) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 (3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 (4) 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合うとする。		
単元の評価規準	知識・技能 ① 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ((2) ア)	思考・判断・表現 ① 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア) ② 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C (1) ウ) ③ 「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 (B (1) イ)	主体的に学習に取り組む態度 ① 進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときについにかしたいことを見つけながら読もうとしている。 ② 分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。

単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)

自動車の説明をするときに、「しごと」にあつた「つくり」になっているかを確かめながら、説明する文章を書こうとする児童。

単元を通した学習課題 (単元の中心的な学習課題)		本単元で働く見方・考え方
自動車の「しごと」と「つくり」を確かめて、「こんなところ、すごい！はたらくじどう車ずかん」を作ろう。		接続詞の言葉の働きに着目し、何がどのような順序で書かれているか、書かれている事柄と事柄の関係を捉えることを通して、言葉への自覚を高めること。

指導計画と評価計画 (14時間取扱い 本時 4/14)

過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的な評価規準」
一	2	○自動車クイズを出題したり、教科書の挿絵をもとに知っている自動車について話し合ったりすることで、自動車についての興味を持ち、学習課題を設定する。 ○学習課題に沿った問い合わせを立て、学習の見通しを持つ。	★【態①】 (発言・シート) ○自動車について知っていることを話したり聞いたりして、自動車図鑑作りに興味をもち、進んで学習に取り組もうとしている。
二	6	○既習の説明文（「つぼみ」、「うみのかくれんぼ」）の説明の仕方を振り返り、問い合わせの文や出てきた自動車を確かめ、内容の大体を捉える。 ○バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取り、「しごと」「つくり①」「つくり②」という説明の順序になっていることに気付き、内容の大体を捉える。 (本時) ○トラックの説明が「しごと」にあつた「つくり」になっていることを読み取る。 ○「そのために」という言葉の役割について考え、クレーン車の「しごと」と「つくり」の説明が接続詞でつながっていることに気付く。 ○3つの自動車の説明の仕方を比べ、どんな順序で自動車が登場しているかを話し合う。 ○はしご車の「しごと」と、そのしごとに合つた「つくり」を考え、まとめる。	★【思①】 (発言・シート) ○「問い合わせ」を捉え、何について書かれているか大体の内容を読み取っている。 ★【思①】 (発言・シート) ○「しごと」「つくり①」「つくり②」という説明の順序になっていることに気付き、内容の大体を捉えている。 ★【知①】 (発言・シート) ○トラックの「しごと」と「つくり」を読み取り、その関係について理解している。 ★【思②】 (発言・シート) ○接続詞の役割とその言葉の必要性について理解している。 ★【知①】 (発言・シート) ○3つの事例の順序について、考えることを通して、説明文の構成の意図を捉えている。 ★【態①】 (発言・ワークシート) ○これまでの学習をいかして、はしご車の「しごと」に合つた「つくり」を捉えて読んで、まとめようとしている。
三	4	○自動車図鑑を作るための学習の流れを確認する。 ○本や図鑑などを使って、自分が紹介したい自動車を決め、その自動車の「しごと」について、調べてまとめる。	【態②】 (発言・観察) ○自動車について説明されている本や図鑑などを読み、進んで調べようとしている。 ★【思②】 (観察・シート)

		<ul style="list-style-type: none"> ○自分が紹介したい自動車の「つくり」について、調べてまとめる。 ○まとめたことを基に、自動車を説明する文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本や図鑑の中から、「しごと」とそのしごとに合った「つくり」にあたる部分を選び出し、書き抜いている。 ★【思③】（シート） ○調べた自動車について、「しごと」と「つくり」を「そのために」を使って書いていている。
四	2	<ul style="list-style-type: none"> ○書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。書いた文章をグループごとにまとめ、自動車図鑑を完成させる。 ○学習を振り返り、単元のまとめをする。 	<p>【態②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達が書いた文章を読み、工夫していると感じたところを伝えている。 【態②】 ○学習を振り返り、身に付けた力を今後の学びにいかそうとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
小学校学習指導要領第1学年及び第2学年	
〔知識及び技能〕（2）ア 情報の扱い方に関する事項 〔思考力・判断力・表現力等〕「B書くこと」「C読むこと」	
教材・題材の価値	
<p>本教材は、自動車について書かれた1年生3本目の説明的文章である。はじめに「それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。」、そのために「どんなつくりになっていますか。」という二つの問い合わせがあり、その問い合わせに対する答えを探しながら3つの事例を読んでいく。また、既習の説明文（「つぼみ」、「うみのかくれんぼ」）と違い、本教材では接続詞が初めて登場する。それぞれの事例において、「どんなしごとをするか」、「どんなつくりになっているか」という2つの問い合わせの答えが「しごと」と「つくり」の2段落に分けて書かれている。この2つの文を「そのために」という言葉でつなぐことで、分かりやすい文章構成になっている。また、自動車を比べることで、事柄の順序に注意しながら読んだり、「しごと」とその特徴となる「つくり」を表す重要な語や文を選び出したりできる教材である。</p> <p>さらに次単元は、自分で自動車を選んで説明する文章を書く学習である。自動車は多種多様であり、多くの児童にとって興味を持ちやすい題材といえる。「じどう車くらべ」の学習を経ているので、「しごと」と「つくり」に着目して情報を集め、構成を考えることに適した教材である。</p>	
本単元における系統	

児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元の学習に関する意識の状況（R7年10月実施）（%）

調査内容	はい	どちらかといえはい	どちらかといえはいいえ	いいえ
① 説明文の学習は好きですか。	31	38	15	15
② 教科書をすらすら読めますか。	23	35	19	23
③ 国語の授業で「できた」「わかった」と思うことがありますか。	31	42	15	12
④ 国語で習ったことを、次の学習に「いかしたい」、「いかせる」と思っていますか。	42	46	12	0
⑤ 授業で考えているとき、友達の考えを聞きたいと思いますか。	50	50	0	0
⑥ 自分の考えを相手に伝えたり、発表したりできていますか。	12	31	23	35

■考察

本学級の児童は、これまでに「つぼみ」や「うみのかくれんぼ」の単元を通して、説明的な文章を読み、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え、それを基に文章の中の重要な語や文を見つける学習をしてきた。意識調査の結果からも分かるように、読むことについては、すらすら読める児童、拾い読みで内容の理解に至るまでに時間がかかる児童など、個人差が見られる。しかし、音読練習を重ねることにより、徐々に言葉や文としてのまとまりを意識した読みができるようになってきている。内容を正しく読み取ることに課題のある児童が数名いるため、文の表現に着目してサイドラインを引いたり、挿絵と照らし合わせたりすることによって、書かれていることの大体を読み取らせるようにする。

また、⑥の質問に対しては、肯定的な回答をした児童は4割程度である。友達の考えを聞く態度は育っているが、自分の考えを相手に伝えたり、発表したりすることには自信がなかったり、その必要性を感じ取れていなかつたりすることが考えられる。そのため、互いに考えを伝え合う良さを感じ取れるように、ペア活動や全体での対話を意識しながら授業づくりを行う。

3 研究の視点

研究主題
学びの自覚化を通した主体的な読み手の育成 ～国語科「説明文教材」を中心とした授業構想～
研究の視点
(1) 「問い合わせ」が生まれる導入の工夫
① 単元をつらぬく「問い合わせ」を生む工夫
・自動車の写真を提示して、名前当てクイズをしたり、教科書の挿絵を基に知っている自動車について話し合ったりすることで、子供たちは自動車についての興味を持つ。話し合っていく中で、自動車には自分たちの知っているものだけでなく、多くの種類があることやまだ知らないものがあることに気付く。そういった自動車のことを詳しく知って「じどう車はかせになろう！」という意識を持たせる。「じどう車はかせ」として自動車のことを説明するためには、これから学習で何を学びたいのかを「問い合わせ」という形で明確にする。そうすることで、教材から学ぶ必要感を持つことができるようとする。
② 学習の連続性を意識し、「問い合わせ」を更新していく工夫【本時】
・毎時間授業の導入で、前時での振り返りや感想を電子黒板に映し、全体で共有する。毎時間の学びがつながっていることを自覚すると共に、単元をつらぬく「問い合わせ」の解決に向けた学びの価値づけをして毎時間の授業に目的意識を持って向かうことができるようとする。
(2) 重点指導事項や既習事項をもとに組み立てる授業構成の工夫
① 学びの系統性を意識した単元計画の工夫
・単元計画をする際に、本教材の重点指導項目を軸にすることで、本教材で確実に学ぶ必要があることは何かを明確にする。その上で、前教材で学んだことを意識しながら、効果的なアプローチができるようとする。
② 重点指導事項をもとに考える学習活動の工夫【本時】
・問い合わせに対する答えの「しごと」や「つくり」を読み取ることを通して、「しごと」「つくり①」「つくり②」という説明の順序になっていることに気付かせたい。
(3) 「わかった・できた」を実感させる「振り返り」の工夫
① 考えの共有を促す学習形態の工夫【本時】
・自力解決場面、ペア対話の場面、全体での共有を意識した授業づくりを行う。自分の意見を伝えるために、自力解決の時間を確保する。その後、自分の考えの理由を説明したり、相手の考えとその理由を聞いたりすることができるよう対話活動を取り入れる。他者と考えを共有させることで、より自分の考えを深めることができるようする。一人では分からなかった考えに出会い、他者と考えを共有することで、自分の考えを価値づけられるようとする。
③ 学びの自覚化につながる振り返りの工夫【本時】
・本時の学びを振り返りの視点（できしたこと・わかったこと・次に生かしたいこと）に沿って振り返らせる。自分の言葉で振り返ることで、学びを自覚するとともに、次時の学びへの意欲付けとする。また、単元の最後には、教科書の「ふりかえろう」を活用した振り返りを行う。本単元で学んだことをまとめ、学びを実感させるとともに、学んだことが今後につながっていくことの見通しを持たせるようとする。

4 本時の学習

(1) 目標 バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取ることを通して、「しごと」「つくり①」「つくり②」という順序で説明されていることに気付き、内容の大体を捉えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図,内容,方法等)
導入	5分	<p>1 単元のゴール、問い合わせを振り返る ◇ゴール「こんなところ、すごい！はたらくじどう車ずかんをつくろう。」 ◇問い合わせ（はてな）「・じどう車のことがわからない。・どんなかきかたをするのか、どんな文にするのか、どんなせつめいにするのか。」</p> <p>2 前時の学習を振り返る。 ◇「うみのかくれんぼ」と同じように、「じどう車くらべ」にも問い合わせが2つあった。 ◇出てきた自動車は、「バスやじょうよう車」「トラック」「クレーン車」の3つだった。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○学習課題を確認し、単元を貫く問い合わせを振り返ることで、何のために学習をしているのかを焦点化する。</p> <p>○前時の振り返りを出すことで、これまでの学びを想起し、本時の学習につなげられるようにする。</p> <p>○既習事項と関連させながら、「じどう車くらべ」の大体の内容を確認する。</p> <p>○1つ目の自動車である「バスやじょうよう車」の説明を詳しく読んでいくことを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】じどう車はかせは、バスやじょうよう車のせつめいをどのようにかいしているのか</p> </div>
展開	30分	<p>4 本文を音読し、「しごと」と「つくり」を見つける。 (1)「しごと」や「つくり」が書かれている文に線を引く。 ◇人を乗せて運ぶことが「しごと」。 ◇座席のところが広く作ってあることが「つくり」。 (2)ペアや全体で共有する。 ◇人を乗せて運ぶ「しごと」をするから、座席のところが広く作ってあるんだね。 ◇大きな窓がたくさんあることも、バスやじょうよう車の「つくり」だ。 ◇外の景色がよく見えるように、大きな窓がたくさんある「つくり」になっている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【期待される学びの姿】 バスや乗用車の説明が「しごと」「つくり①」「つくり②」の書かれ方になっていることに気付いている。</p> </div>	<p>○「しごと」が書かれているところは赤で、「つくり」が書かれているところは青で色分けをして、線を引くようにする。</p> <p>○ペア活動で、線を引いた箇所とその理由について対話をした後に、全体で共有する。</p> <p>○挿絵や車内の写真を提示したり、乗車した経験を想起したりしながら「させき」の意味や、なぜ広く作られているのか、なぜ大きな窓がたくさんあるのかを問うことで、「しごと」の文とのつながりにも着目させるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【到達していない児童への手立て】 「大きなまどがたくさんあります。」の文末を言い換えて示し、3つ目の文も「つくり」について書かれていることを押さえる。</p> </div>
終末	10分	<p>5 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【まとめ】バスやじょうよう車のせつめいは、「しごと」「つくり①」「つくり②」というじゅんぱんでかいてあった。</p> </div> <p>6 本時の振り返りをし、次時の見通しを持つ。 ◇バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ「しごと」をすることが分かった。 ◇「つくり」は2つ書かれていることを知った。 ◇次のトラックの説明は、どのように書かれているのか知りたい。</p>	<p>○「振り返りの視点」に沿って、振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【具体的評価規準】【思①】 ★「しごと」「つくり①」「つくり②」という説明の順序になつていてることに気付き、内容の大体を捉えている。 (方法：発言、発表、シート)</p> </div>